

今日、学校アドバイザー派遣授業もあったので、ゆっくりといくつかの学級の授業を参観しました。その授業での気付き（概要）を以下に記します。

1 5年生（分数）

「分数」の単元導入の授業でした。私は5分ほど遅れて教室に入りましたが。子どもたちは、同じ考えの友達と集まってグループをつくり教室の後ろのスペースに座り学習をしていました。担任がコーディネートしながら楽しい雰囲気です。授業の幕が開きました。

Points① 学びの場をスクール形式に限定せずに45分の中で学びの場を崩すことも大切

めあては、「等しい分数の見つけ方を考えよう」でした。めあてを書き終えてしばらくしたら、ある児童が「めあてを読みましょう。」とリードし、全員がめあてを読みました。

ある程度のタイムプレッシャーも必要です。もし、まだめあてを書けていない子どもも書きながらめあてを読むことができます。個人思考前にスタートラインが揃うのです。

Points② 間延びをさせないためのタイムプレッシャー(学習訓練・学習の時間の確保)

個人思考の後に4人程度のグループでの対話がありました。机を寄せずに椅子だけ移動しての対話でしたが、相手に見やすいようにノートの向きを変えて発表していました。

■ 隣の友達にようやく届くくらいの声の大きさだったので、ペアやグループの際も、全体の時のような声の大きさでいいと思います。隣のグループの発表がうるさくて学びができないと答える児童がいたら、「集中が足らん」と指導をしてください。

全体発表時に、最初の挙手が少なかったので再度「発表してください」とやり直しがありました。11名程度の挙手で始まりました。←ここは全員挙手が欲しいところ。

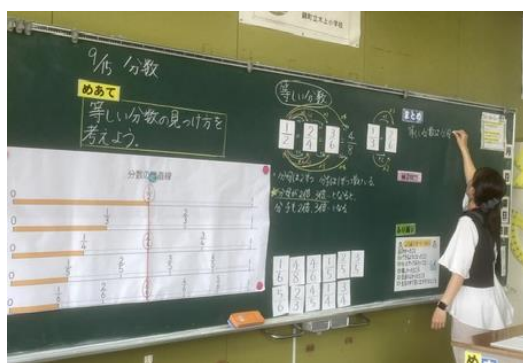
$$A \quad \frac{1}{2} = \frac{2}{4} = \frac{3}{6}$$

ある児童が、こう答えました。「分母は2つずつ増えて、分子は1つずつ増えます。」

すかさず担任が、「今、〇〇さんがいった内容を発表してください」と言いました。

しっかり聞いていないと答えることができません。聞く訓練と児童がアウトプットするいいタイミングとなりました。

またある児童が、「分母が2倍、3倍、となると分子も2倍、3倍になる。」と発表しました。



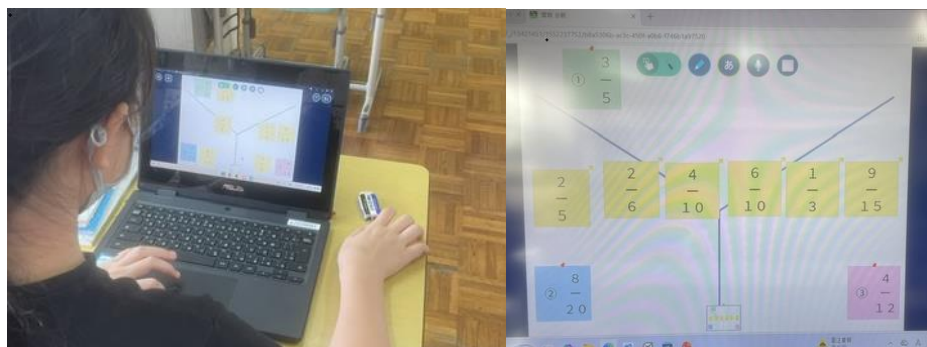
担任は「ノートを見て今の発表を隣の人に伝えなさい」と指示を出しました。

Points③ 発表する児童のみがアウトプットするのではなく、全員がアウトプットできる多様な手法を駆使する。

まとめでは、子どもが自らまとめを書きました。核となる部分が間違っていなければあとは自分の言葉で書いていいんだと感じました。日頃の訓練の賜物です。

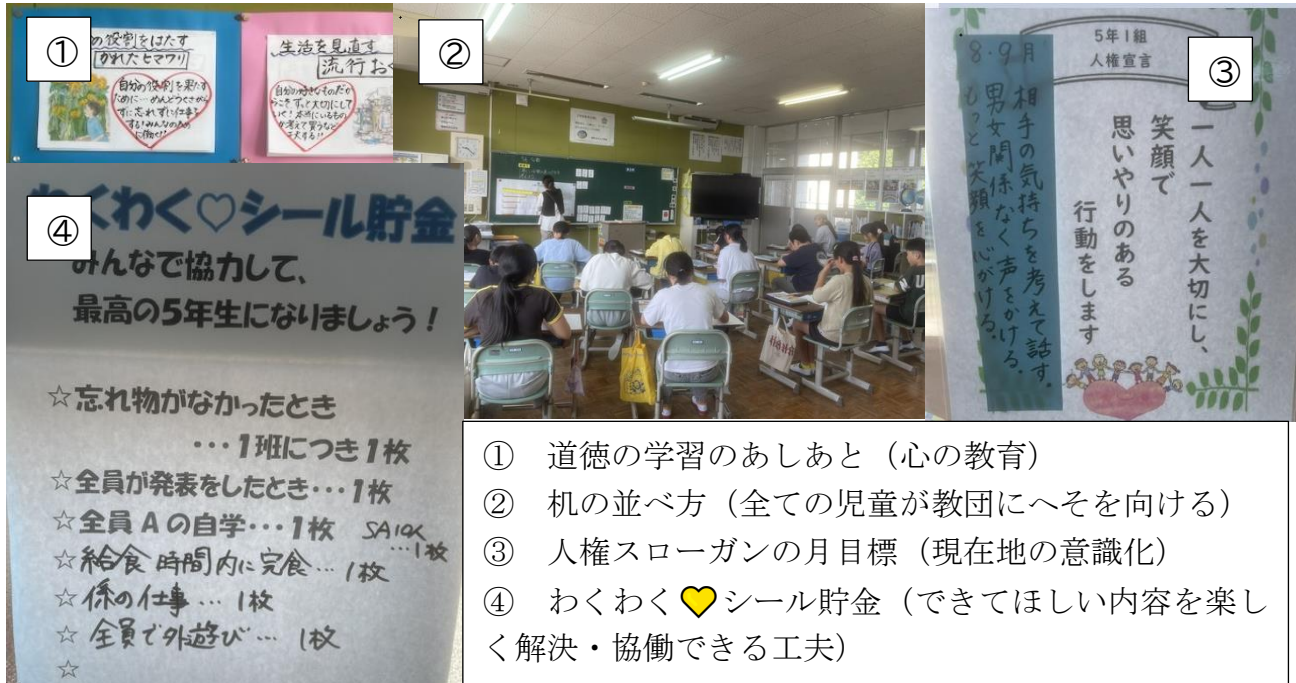
最後に、タブレット（ロイロノート）を使って適用問題を個人思考しました。出来栄が一気に見えて評価できるICTの良さが伝わりました。想像以上に短時間で使いこなしていて驚いたところです。

↓ 裏面に続く



- Points④ 子どもが学習を進める(つくる)場面がある。
 Points⑤ 子どもができていない学び方を正す。(やり直す、徹底する)
 Points⑥ 教師がしゃべりすぎない。=子どもに委ねる時間も必要 (7:3の授業)

授業以外にも教室掲示や協働的な活動支援に対するにも工夫がありました。



2 6年生外国語

英語専科とALTで外国語を学んでいます。今日は6年生の授業を参観しました。専科の笑顔とテンポのよい授業が、子どもたちの学ぶ意欲を高めていました。「教師はアクターであれ。」と先輩教師に言われたことを思い出しました。ALTは2学期から本校勤務になったばかりですが、すっかり専科との掛け合いもうまくできていて、ところどころ子どもたちからも笑顔が見えました。

めあての提示やToday's goalも明確で、運動量のつまった45分間でした。子どもたちの表情もよく、交流学习に参加したものも含め、全員が違う友達と英語でコミュニケーションを図る場面が5回以上設定してありました。

英語専科は、とにかくリズムがよく褒め上手です。特に心に残った言葉は「みんなは、何を勉強していいかを見付けるのが上手ですね。」でした。答えを教えるのではなく、学び方を教える姿勢で授業づくりをされているからこそ出た褒め言葉だと思います。

木上小学校の子どもは、このような環境で学べて幸せだと思いました。錦町小中学校教育努力目標(確かな学力の育成)の中に「学び続ける力を育てる質の高い授業の実践」があります。その一つが『4校連携した英語力向上対策の推進』です。小学校から中学校にスムーズにつなげる組織づくりはできています。

6年担任の、教室の中に入り授業を参観するとともに、子どもたちの学習を支援しています。今後、授業をする立場になった時に、とても参考になる「生きた授業」でした。

ALTは2学期から本校勤務になったばかりですが、すっかり専科との掛け合いもうまくできていて、デモンストレーションなど多くの場面で子どもたちから笑顔が見えました。令和8年度は折り返しになりますが、今後ともよろしくお願いします。